

## 令和6年度 佐世保市特別職報酬等審議会（第1回）

【開催日時】 令和6年8月19日（月） 14:30～15:40

【開催場所】 市役所5階 庁議会室

【出席委員】 10名

【議事要旨】

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長挨拶（副市長代理）
4. 会長選出
5. 諮問書提出
6. 審議

～事務局説明～

今後のスケジュール案、市長や副市長、議員の報酬が適切かどうかを考える視点や法的ルール、過去の改定の経緯、他都市との比較、社会経済指標等の動向など

（会長）

まずはスケジュールについてご質問も含めてご意見があったらお願いしたい。10月から11月を目途に、というお話だったが、何かないか。

≪意見なし≫

（A委員）

年収は給料月額の12倍と考えていいか。他に手当などは入らないのか。

（事務局）

年収としては更に期末手当が加わる。期末手当については、国の人事院勧告に準じて支給月数を決定をすることになっており、現在は3.4月分となっているので、年収は月額の15.4月分となる。こちらに記載している特別職については、すべて同じルールで支給される。

（B委員）

全般的に議員の給与が中核市の中でも低いようだが、議員は費用弁償というものがあると思うが、その費用弁償はどのくらいの科目であって、どれくらい出してあるのかも教えていただきたい。

(事務局)

政務調査費については、議員個人ではなく所属している議員の数に応じた額を会派に対して支給することになっており、議員の個人の収入になるわけではない。ただ議会の出席等について、費用弁償ということで交通費等が支給されている。

(B委員)

政務調査費や費用弁償というところも次の回でいいので資料を出していただきたい。

(C委員)

他の都市との比較ばかりで決めてもというのものもあるが、長崎市以外の県内の市、諫早市とか大村市とかの数字を見てみたい。あと他の市と現在の状況で比較をされているが、ここ数年増えているのか、佐世保市同様長い間変わらないのか、その点も次回提示いただきたい。また、特別職の総報酬額と財政規模の比較、例えば報酬を1%上げたらどれくらい財政に対してインパクトがあるのか。

あとは報酬とは直接関係ないかもしれないが、議員のなり手不足という問題がある。佐世保市は今出馬される方が多いと思うが、いろんな地方で問題になっていることが今後起き得るのか、いわゆる職業として議員が成り立つのかという論点もあると思う。特に市長とかになると顔であるので、今後市長のなり手がいないという状況にはならないようにしなければ。例えば東京とか世界で活躍されている方が故郷に帰って貢献したいと思われた場合に、この給料じゃねえというようなこともあるかもしれないし、他市と比べるだけではなく、そういう視点も必要ではないか。佐世保市が発展するために必要な人材を手当するという意味でも、それに見合った報酬という視点も必要だと考える。

(事務局)

先ほどご指摘いただいた議員の費用弁償や県内の他の自治体の資料等については次回の会議の中でお示ししたい。

(会長)

私もこの資料を見て、まず、中核市での順位の表(資料8ページ)がすごく重要な焦点になってくると思った。佐世保市が62ある中核市の中で人口が55番目であるから55番目に統一するものか、それとも面積で見て26番目にしていくのか等という議論。あとは市長、副市長、議長、議員の順位がバラバラになっているのでみんな同じ順位に合わせていくのか、現状のままで見送るのか、或いはもっと下げていくのかというところが焦点じゃないかと思う。

(D委員)

佐世保の一般の方は全国的にもものすごく低い所得になっているのに、議員とかの報酬をどんどん上げていくというのはちょっと考え物じゃないかと思う。

佐世保市にしても、我々市民もいろんなことで市のお手伝いをしている。それも年間5000円とか1万円以内とか、もうボランティアで一生懸命お仕事されている方が何人もおられる。そういうのを

考えると、極端なパターンになってくるとやはり一般市民の方も、ちょっとねって。

議員は、週に何回市役所に来て仕事されているの？とか、そういう話もある。毎日仕事をされているような方と比べると議員はちょっと特殊ではないか。対象は全員にさせていただきたいと思うが、上げ幅を一般の職員の方、市長、副市長と一緒に並べていくのはどうか、と一般の考え方として自分はそう思う。

(会長)

ざっくばらんに、賛成の方でも反対の方でもいろいろとご意見をいただけると。

今お話あったように、県民所得が長崎県は全国から見ても低い方という指摘があったし、後は官と民のバランスといったところの調整もあるので、そういったところも加味してどうするのかという議論も当然大事な視点になると思う。

(E委員)

何が妥当なのかってなかなか難しいが、やはり事務局に色々なパターンで案を出していただくしかないと思う。一般職が累積約1.4%上がっていると、それを当てはめたら額はいくらになるのか、または中核市何位だったらいくらになるのか、それで上昇する総額はいくらなのか、というようなところを総合的に出していただいて検討するしかないと思う。ただ一律的に何位だから何位にするっていう話にはならないだろう。

(F委員)

素朴な疑問だが、「特別報酬検討の視点」(5ページ)の「③総合的な視点」の欄に「公選職としての職責の水準であるか。(魅力を含む)」と書いてあるが、どういったことなのか。

(事務局)

まさにここはC委員におっしゃっていただいたことになると思う。

市長や議員にチャレンジしようと思える額なのか、その責任やそれぞれ4年の任期が終わればその次があるか分からないというところもある。そのようなところを踏まえて、この額が適正な、職責に対しての額なのか、という視点。

先ほどのD委員からもあったような市民感情というか市民の意識というか、そういったところも含めて総合的に見ていくものになるかと思う。

(F委員)

先ほどD委員からも言われたとおり、(議員が)市役所に来られる日数は確かに気になるので、そういった資料も検討材料になるかと思うので、次回提示をお願いしたい。

(G委員)

財政状況をよく知らないのだが、中核市の中で財政状況、積み上がった赤字が単年度で財政の何%くらいあるのか。普通の会社であれば、そういうのが給与の基準になってくると思うが。今の議員方

が赤字を作ったわけではないかもしれないが、現在の状況がそうであれば、赤字が何%で中核市のどのくらいの範囲にあるのかというのを提示していただいた方がいいかと思う。

(事務局)

財政状況については定期的に市民に公表している資料もあるので、次回お示ししたい。

(会長)

いろんなご意見をいただき、今手持ちの資料以外にももっと見てみたい資料というのも結構出てきた。そういった資料と、あとはいろいろな改正の事務局案をAパターンBパターンのような形で出してもらいたいと思う。

G委員からもご意見のあった「佐世保の財政状況」(資料11ページ)の下の方の財政力指数や経常収支比率の部分、財政力指数は令和6年だと0.53だが、1が通常と考えると0.5は半分ということになるので、この数字を見てもいかに低い、厳しい状況かというのはお分かりいただける。経常収支比率も100%が原則となるので、それを下回っているということは増減率がプラスになって見えても結局は赤字に近いという状況がここにも伺える。そういうところも参考にさせていただけると思う。

他の中核市との比較というのは先ほどから意見が出ているので、そういったところの比較ということも可能な限りお願いしたい。62市あるので、そこの比較ができるように。

まだご意見いただいてない方は、せっかくの機会ですから。

(H委員)

私ども民間だとベースアップが欲しければ、やはり売上を上げるという世界になってくると思うが、例えばこの宮島市政になって何か新しいことに取り組んで財政が増えたとか、要らないものを省いて支出を削ったとか、通常の民間だったらするようなことで、何か形に見えるものがあるか。

(事務局)

非常に難しい厳しい質問だと思うが、宮島市政になったのが今年の4月30日なので、本格的な予算は今年度からとなる。今年度の予算や総合計画の後期基本計画を大幅にリニューアルして今年度からやっていくというところで、単年度で結果、成果を見いだすことが難しいというのが行政のなかなか難しいところ。ただ、市長としては少子高齢化や人口減少そういったところを重点的にやっていくんだという姿勢を示されているし、それから行財政改革についても、例えばDXなどの新しい手法を用いながらやっていくというところについても積極的に指示を受けている。

そういうことで、単年度としてどのような成果があるのかというところはなかなか難しいところがあるが、そのような行財政改革や市政の発展といったところで税収を上げていくというところについては取り組んでいるとご理解いただきたい。

(I委員)

先ほどおっしゃったとおり収益が上がらないと労働者の賃金は上がらない。で、佐世保市の今の状況は、おそらく地方交付税を含む額で予算組みされていると思う。10年前と今と比べたときにその割

合がどうなっているのか、また、予算に対する人件費の率がどのように変わっていったのか。そういうところも教えていただきたい。

(会長)

今日の皆様のご意見を整理させていただくと、方向性のところまではまとめきれなかったという印象を受けている。もう少しいろいろな資料を見たいという意見があったので、次回に向けて事務局の方で準備していただいて、それを見てさらに議論を深めていきたいと思う。

(事務局（総務部長）)

今日は本当にお忙しい中、厚く感謝申し上げます。

委員の何名かからもご指摘があったが、報酬を上げるのであればその財源どうするのかという議論は当然出て来ようかと思う。逆に言うと、ここで上げると決めれば、全体の財政の中でどのような工夫をして財源を生み出していくのかという話になるかもしれないので、例えば報酬を1%上げるならばいくら必要です、ではそれどこから持ってきます、という議論はなかなかこの場では難しいかもしれないが、あくまで答申をいただき、それを市の中でどうしていくかというのが次のステップになるかと思う。次の会までにそういった財政のあり方まで論じることは難しいと思うが、市全体の財政状況が今どういう状況かというのはお知らせをできていると思っている。

また、ご指摘いただいたように、やはり10年前15年前と比べて市民感情、やはり経済状況に相まって言葉正しいかどうか分からないが、やはり厳しい状況なのかというのは私どもも認識をしている。そういった中で、私ども一般職の給料がほぼ累積1%内の上げ下げであったのが、今回1%を超えたということで改めて審議会の開催をお願いしたというのは冒頭お話をしたとおりだが、色々ご意見をいただいたので、次回まで資料を揃えて、更に活発なご意見いただいた中で方向性を出していただければと思っている。

それから、県内他都市の改定状況は、長崎市は令和5年5月1日に新しい市長が就任する前に報酬等審議会を開催して条例を変えているようだが、他の諫早や大村、島原は私どもと同じように平成19年ぐらいから改定がないような状況である。聞くところによればそろそろ報酬審議会も開催しなければいけないという状況があったかと思う。

それと議員や市長のなり手の話もおっしゃっていただいたが、この辺りは前回の改定から大きく状況が変わっていると思う。若い議員の方も増えてきたという印象を受ける。また、費用弁償の質問もあったが、これはあくまでも活動にあたっての費用である。議員が何日きているのかという話もあり、これは経過が分かればご報告したいと思うが、あくまで議員は地域に選ばれた議員なのでこちらに来る日数が少ないからイコール仕事をしてないというのは、議員とされても少し違うんじゃないかというように思うが、私もそういう意見もあったということを議会側との意見交換の中で伝えさせていただきたい。

今日は資料の請求などもあったので、ご意見を整理し、次回の審議会に向けて準備をさせていただきたい。次回の審議会は、10月上旬ごろを予定しているので、今後ともご協力のほどよろしくお願ひしたい。本日はありがとうございました。

7. 閉会